

農林水産総合センターセミナーの開催

平成24年7月25日、岡山県農林水産総合センターの各研究所が取り組んでいる試験研究の成果を一般に広く紹介することを目的としたセミナーが開催された。

農業研究所からは「夏期の異常高温による米の品質低下対策」と題して、田植え時期を遅らせることでイネの高温障害が回避できることや、高温でも品質低下しにくい栽培管理手法といった具体的な対策が詳細な研究データに基づき発表された。

また、森林研究所の「日本一の甘栗産地を目指して」では、中国栗の苗木から新品種を作出したことが紹介され、品種改良の難しさや面白さが伝わる発表であった。

水産研究所からは水圏環境室林専門研究員が、

「カキ殻を利用して海底の生物を増やす技術」というテーマで、平成21～23年度に実施した底質改良試験の成果を発表した。カキ殻の敷設によって濁りが抑えられ、底生生物の種類や数が増えたことを説明した上で、改良後の海底の状況をビデオで流すと、あちらこちらにナマコが確認でき、参加者から驚きの声が洩れていた。

この他、各研究所から、合計5課題の研究発表が行われ、生産者や農林漁業団体、市民ら約130人が真剣に聞き入っていた。

統合された農林水産総合センターとしての成果を今以上に上げていくためには、分野を超えた研究所間の連携も重要である。広く成果をPRするだけでなく、こういった機会を活用し、私たち研究員も資質の向上に努めたい。

(水圏環境室：藤井)



写真1 セミナーで発表する林専門研究員



写真2 試験区で見られたナマコ